



## 1. 選択肢

令和7年度第3回多文化共生推進会議で報告したとおり、今後のあり方について継続する場合と継続しない場合の双方の観点から検討を行いました。

### (1) 事業を継続する場合

#### ①現在の形を継承

出店者の選定方法について検討が必要。特定の出店者の固定化を避け、新たな参加者の掘り起こしを進める観点から、初めて出店する外国人市民の支援など、「0を1にする」機会の創出に重点を置く。

#### ②委託による開催

民間団体等への委託による開催。開催を担うだけの人員や体制が確保できるか、市への依存度が高くないかが課題。

### (2) 事業を継続しない場合

#### 出店支援事業への転換

単独のマルシェを開催するのではなく、既存のイベントや販売機会への出店を支援する。

具体的には、申込み手続や情報入手の支援、市主催事業や地域イベントへの出店調整などを行い、外国人市民が人の集まる場で販売経験を積める機会を増やす。



## 2. 検討内容

### 現在の形を継承

#### やること

- ・新しい参加者の掘り起こし

#### 課題

- ・新規参加者にも限りがあり、結局参加者が固定化される可能性
- ・恒例イベントとなって辞め時を見失う

### 委託による開催

#### やること

- ・委託先の選定
- ・委託業者のサポート

#### 課題

- ・委託業者が見つかるか

### 出店支援事業への転換

#### やること

- ・産業振興祭や市民芸能祭などの市のイベント、朝市や犬山マルシェなどの民間のイベントの情報収集
- ・参加希望者に情報発信
- ・参加申込のサポート、主催者との仲介

#### 課題

- ・参加希望者の把握
- ・事務が長期にわたる
- ・マルシェのような成果が見えにくい
- ・参加希望者がいなければ空振りの事業となる



## 3. 今後の方向性

### 現在の形を継承（ただしステップアップ）

#### 1 基本方針

現行の実施形態を継承しつつ、市と参加者が協働して運営に関わる機会を拡充し、将来的な実行委員会化を目指す。

#### 2 実施手法

参加者に対し、運営の一部について「協力」を依頼し、主催側への入口とする。内容は、会場装飾やステージ進行など限定的な業務とし、過度な負担とならない範囲で設定する。ボランティアによる協力を前提に、職員と協働で行う。

#### 3 将来像

協力内容を段階的に拡大し、「参加者全員で作るマルシェ」への移行を図る。また、開催を重ねることで恒例イベントとして市民への認知を高め、最終的には実行委員会の立ち上げによる持続的な運営につなげたい。

#### 4 期待される効果

市と参加者が協働して事業を実施することで、継続的な関係性の構築が期待できる。

#### 5 課題

- ・新規参加者の確保と既存参加者の運営参画の拡大という2つの目的の両立。
- ・実行委員会の立ち上げに至らなかった場合の、事業の継続・見直し基準。

#### 6 今後の検討事項

- ・段階的な役割拡大の具体的な設計（どの時点で何を担うか、どのタイミングで実行委員会化するか）
- ・一定期間内に進展が見られない場合の事業見直し基準の設定（〇年実施しても実行委員会化に至らない場合はマルシェ継続の是非を再検討する等）